



▶ 黄色いハンカチに願いを込めて

4月12日、赤城町溝呂木自治会の皆さん、地域の子どもたちと一緒にコロナ収束の願いを込めて、溝呂木四つ角「花いっぱい花壇」に黄色いハンカチを掲げました。ハンカチには、「学校で遊びたい」「友達に会いたい」「普通の生活がしたい」などの切実な思いが書かれていました。

今は、「誰一人孤立させない」「誰一人取り残さない」という気持ちを一人一人が持ち、家族の絆、地域の絆をより強くしていく必要があります。市役所職員も「高齢者声掛け隊」を作り、一人暮らしの高齢者を見守ります。市民の皆さん、皆で力を合わせてコロナに立ち向かい、困難を乗り越えましょう。コロナに負けるな!!



かれています。私は、「コロナに負けるな!!」と書いて、一日も早い収束を祈りながら口一言にくくりつけました。今もなお、コロナの感染者は増え続けており、収束の見通しは立っていません。このような状況がいつまで続くか分からぬことも、とても辛いことです。

自然災害の時には、皆が身を寄せ合って助け合い、励まし合いますが、コロナの災禍では、できる限り接触しないで、距離を置かなければなりません。しかし、こういう時こそ本当の助け合いの気持ちが大事です。携帯電話やメール、手紙など、さまざまなコミュニケーションの手段があります。地域の助け合い活動や見守り活動もできる限り接觸しない方法で、できることが考えなければなりません。

市役所職員も「高齢者声掛け隊」を作り、一人暮らしの高齢者を見守ります。